

第1 平成20年の気象概況

1 平成20年の気象の特徴

(1) 概況

前年（平成19年）12月から1月上旬までは、天気は数日の周期で変わり、日本付近を通過した低気圧の影響で10日前後の周期でまとまった降水量となった。1月中旬から2月上旬にかけては、低気圧が短い周期で四国の南岸を通過し、曇りや雪または雨の日が多くなった。2月中旬以降は冬型の気圧配置が続き、強い寒気の南下とともに冬型の気圧配置が強まる時期があった。

3月の天気は数日の周期で変化した。また、3月の中旬は低気圧の影響で全般にまとまった降水量となった日があった。気温は中旬を中心に高い傾向となり、日照時間もかなり多くなった。4月は月半ばを中心に四国の南岸を低気圧が頻繁に通過したため、曇りや雨の日が多くなった。その他の日は高気圧に覆われて晴れた日が多かった。5月は数日の周期で低気圧が日本付近を通過したため、天気は数日の周期で変化した。月末は四国の南岸付近を東進した低気圧の影響で、県内でまとまった降水量となった。また、寒気の影響で気温の変動が大きかった。

6月は梅雨前線が日本列島の南岸に停滞したため、曇りや雨の日が多くなったが、降水量は平年に比べて少なかった。7月から8月前半にかけては、高気圧に覆われて晴れる日が多く、7月後半から8月前半はときどき大気の状態が不安定となり、県内の所々で雷を伴った激しい雨となる日が多かった。8月後半には気圧の谷や前線の影響で、曇りや雨となる日が多かった。29日の未明から昼前にかけて、前線の影響で大気の状態が不安定となり、河内では08時30分までの1時間に観測史上第1位となる88.5ミリ（従来の日最大1時間降水量の第1位は、2005年7月2日の59ミリ）、福山では09時37分までの1時間に観測史上第1位となる93.0ミリの猛烈な雨を観測（従来の日最大1時間降水量の第1位は、1952年8月5日の73.3ミリ）した。また、7月の高温、8月後半の寒気による低温と気温の変動が大きかった。

9月の前半は高気圧に覆われて晴れる日が多かったが、後半は四国の南岸付近を東進した台風第13号や前線の影響で曇りや雨の日が多かった。10月は期間の中頃を中心に高気圧に覆われる日が多かった。11月は寒暖の変動が大きかった。特に中旬の中頃にかけては、高気圧に覆われたことや気圧の谷に向かう暖気の影響で、気温が平年を大きく上回ったが、気圧の谷が通過した後は、強い寒気が南下して大きく気温が下がった。このため19日に広島で初雪（平年は12月9日）と初冠雪：極楽寺山（平年は12月8日）を観測し、20日には初霜（平年は12月7日）と初氷（平年は12月9日）を観測した。12月は低気圧と高気圧が交互に日本付近を通過した。冬型の気圧配置となる日は少なく、天気は数日の周期で変化した。

(2) 平均気温

年平均気温は、三入・世羅で平年並となった他は、平年より高いか、かなり高かった。

(3) 降水量

年降水量は、高野で平年並となった他は、平年より少ないか、かなり少なかった。特に、美土里で年降水量の少ない値の観測史上第1位となる1356.0ミリ（従来の第1位は、2007年の1368ミリ）、都志見で年降水量の少ない値の観測史上第1位となる1338.0ミリ（従来の第1位は、2007年の1397ミリ）を観測した。

また、三入で8月14日に日最大1時間降水量の観測史上第1位となる62.0ミリ（従来の第1位は、1997年8月5日の60ミリ）を観測した。さらに、福山で8月29日に日最大1時間降水量の観測史上第1位となる93.0ミリ（従来の第1位は、1952年8月5日の73.3ミリ）、河内で8月29日に日最大1時間降水量の観測史上第1位となる88.5ミリ（従来の第1位は、2005年7月2日の59ミリ）を観測した。

(4) 日照時間

年間の日照時間は、高野・庄原・大朝・油木・東広島・福山で平年並となった他は、平年より多かった。特に、府中で7月の月間日照時間の観測史上第1位となる243.2時間（従来の第1位は、2004年4月の241.6時間）、竹原で7月の月間日照時間の観測史上第1位となる288.4時間（従来の第1位は、1994年8月の281.1時間）を観測した。また、三入で年間日照時間の観測史上第1位となる1862.3時間（従来の第1位は、1994年の1855.7時間）を観測した。

2 平成20年の各月の気象概況

【1月】 上旬のはじめは、強い冬型の気圧配置で北部中心に大雪。1日に広島で初霜を観測。

上旬 はじめは、昨年の年末から続いた強い冬型の気圧配置の影響で雪の降る日があった。日最深積雪は1日に高野で89センチ、八幡で75センチ、大朝で50センチを観測した。その後、冬型の気圧配置も次第に緩んで、中頃から終わり頃にかけては、気圧の谷の影響を受けた日もあったが、崩れの程度は小さく雲が広がる程度で、高気圧に覆われて概ね晴れた日が多かった。なお、1日に広島で初霜（平年は12月7日）を観測した。

中旬 11日から12日にかけて、気圧の谷の影響を受けてまとまった降水量となり、廿日市津田で46ミリの降水量を観測した他、県内全域で20～40ミリの降水量となった。その後、高気圧に覆われて晴れる日があった。中頃は、気圧の谷が通過した後は冬型の気圧配置が数日続き、北部では雲が広がりやすく曇りや雨か雪となる日があったが、南部では概ね晴れた。終わり頃の20日は、四国の南海上を通過した低気圧の影響で、倉橋で70ミリのまとまった降水量を観測した他、県内全域で15～30ミリの降水量となった。

下旬 天気は周期的に変化した。22日と28日に四国の南海上を低気圧が東進した影響で県内では雨や雪となり、28日は広島で1センチの日最深積雪を観測した。低気圧が東に抜けた後、冬型の気圧配置が続いた。

月平均気温 三入で平年より低く、府中・大竹で平年より高く、その他は平年並となった。

月降水量 三次・八幡・大朝・王泊・久比で平年並、その他は平年より多いか、かなり多かった。

【2月】 上旬と下旬の天気は短い周期で変化。中旬は冬型の気圧配置。

上旬 天気は短い周期で変化した。2日は気圧の谷の影響を受けて雨や雪となり、倉橋で21ミリ、久比で18ミリの降水量を観測した。4日は冬型の気圧配置となった影響で、北部を中心に雪となり、高野で25センチ、八幡で24センチ、大朝で22センチの降雪（積雪差日合計）となった。6日は山陰沖を東に進む低気圧や寒気の影響を受けて、北部を中心に雪や雨となり、高野で26センチの降雪（積雪差日合計）となった。9日は日本海と四国沖を低気圧が通過した影響で、北部を中心に雪や雨となり、高野で19センチの降雪（積雪差日合計）となった。

中旬 冬型の気圧配置となることが多く、北部では雪や雨となる日が多かったが、南部では一時雪の降った日もあったが概ね晴れの日が続いた。12日と17日は、冬型の気圧配置が強まった影響で、北部を中心に雪や雨となり、12日に高野で24センチ、八幡で23センチ、大朝で20センチ、17日には高野で27センチの降雪（積雪差日合計）となった。

下旬 天気は短い周期で変化した。23日と26日は気圧の谷が通り、26日は県内で15～35ミリのまとまった降水量となった。気圧の谷が通過した後は一時的に冬型の気圧配置となった影響で、県内では雪や雨となり、高野で23日に28センチ、27日には25センチの降雪（積雪差日合計）となった。

月平均気温 三次・福山・大竹で平年並、その他は平年より低かった。

月降水量 高野で平年よりかなり多く、八幡・大朝・王泊・甲田で平年より多く、その他は平年並か平年より少なかった。

【3月】 天気は周期的に変化。3日に黄砂を観測。25日にソメイヨシノ開花。

上旬 天気は短い周期で変化した。4日は一時的に強い冬型の気圧配置となった影響で、北部を中心に雪や雨となり、八幡では20センチの降雪（積雪差日合計）となった。9日の夕方から10日の朝にかけては、四国の南海上を低気圧が通過した影響で、八幡で31ミリの降水量を観測した他、県内全域で10～25ミリの降水量となった。なお、3日には広島で今年初めて黄砂を観測した。

中旬 天気は周期的に変化した。14日は日本海の低気圧からのびる寒冷前線が通過した影響で、県内全域で5～20ミリの降水量となった。19日は四国の南海上を低気圧が発達しながら東進した影響で、道後山で91ミリ、内黒山で81ミリ、佐伯湯来で78ミリの降水量を観測した他、県内全域で40～75ミリのまとまった降水量となった。その他の日は、高気圧に覆われて概ね晴れた。

下旬 天気は短い周期で変化した。23日は気圧の谷の影響を受けて、大竹で38ミリの降水量を観測した他、県内全域で10～35ミリの降水量となった。また、30日は気圧の谷の影響を受

けて、県内全域で 20～25 ミリの降水量となった。なお、25日にソメイヨシノが平年（3月29日）より4日早く開花した。

月平均気温 庄原・三入で平年並、その他は平年より高いか、かなり高かった。

月降水量 三次・加計・三入・志和・廿日市津田・広島・大竹で平年並、その他は平年より多いか、かなり多かった。

【4月】 2日にソメイヨシノ満開。中旬はぐずついた天気。

上旬 はじめから中頃にかけては、高気圧に覆われて概ね晴れの日が続いた。その後は短い周期で天気に変化した。7日は四国の南海上を低気圧が通過した影響で、福山で29.5ミ、府中・本郷で28.5ミ、竹原で28.0ミの降水量を観測した他、県内全域で15～25ミリの降水量となった。9日夕方から10日にかけては、九州の西から近づいてきた低気圧が、四国の南岸沿いを通過した影響で、東城で55.0ミリの降水量を観測した他、県内全域で25～45ミリのまとまった降水量となった。なお、2日にソメイヨシノが平年（4月5日）より3日早く、昨年（4月2日）と同じで満開となった。

中旬 気圧の谷や寒気の影響で曇りや雨の日が多かった。16日から17日にかけて、四国の南岸沿いを低気圧が通過した影響で、内黒山で58.0ミ、東城で56.5ミの降水量を観測した他、県内全域で20～50ミリのまとまった降水量となった。また、18日から19日にかけては、気圧の谷や寒気の影響を受けて北部を中心に雨となり、高野で59.5ミ、道後山で46.5ミ、八幡で39.0ミのまとまった降水量を観測した。その他の日は高気圧に覆われて概ね晴れた。

下旬 高気圧に覆われることが多く概ね晴れて、県内の一部では夏日（日最高気温が25度以上）となる日があった。23日の夕方から24日の昼前にかけて、気圧の谷が通過した影響で、廿日市津田で58.0ミ、大竹で42.5ミの降水量を観測した他、県内全域で20～35ミリの降水量となった。

月平均気温 庄原・三入・世羅で平年並、その他は平年より高かった。

月降水量 三入で平年より少なく、高野で平年よりかなり多く、三次・東城・大朝・油木・王泊・世羅・府中・福山で平年より多く、その他は平年並となった。

【5月】 上旬と中旬の天気は周期的に変化。28日ごろ、中国地方が梅雨入り。

上旬 天気は周期的に変化した。5日は日本海の低気圧からのびる前線と四国の南海上を低気圧が通過した影響で、県内の多い所では10ミ前後の降水量となった。また、10日は四国の南海上を低気圧が通過した影響で、県内の多い所では35ミ前後の降水量となった。その他の日は高気圧に覆われることが多く概ね晴れて、県内の一部では真夏日（日最高気温が30度以上）となる日があった。

中旬 天気は短い周期で変化した。13日は寒気を伴った低気圧が日本海を通過し、大気の状態が不安定となった影響で、県内の一部では雷を伴った雨となり、多いところで10ミ前後の降水量となった。19日は気圧の谷が通過した影響で、都志見で47.0ミ、大竹で43.0ミ、大朝で42.0ミ、廿日市津田で38.0ミの降水量を観測した他、県内全域で10～35ミリの降水量となった。その他の日は高気圧に覆われて概ね晴れた。

下旬 24日から25日と28日から29日は前線や低気圧の影響を受けて、県内全域でまとまった降水量となった。こういった中、中国地方は28日ごろに梅雨入り（平年6月6日ごろ、昨年6月14日ごろ）した。24日から25日にかけては、久比で83.0ミ、竹原で70.5ミ、内黒山で70.0ミの降水量を観測した他、県内全域で40～65ミリの降水量となった。また、28日から29日にかけては、佐伯湯来で64.0ミ、廿日市津田で62.5mm、道後山・大竹で61.0ミ、三入で59.5ミの降水量を観測した他、県内全域で20～55ミリの降水量となった。その他の日は高気圧に覆われて概ね晴れた。

月平均気温 高野・三次・庄原・大朝・油木・三入・世羅で平年並、その他は平年より高いか、かなり高かった。

月降水量 三次・東城・八幡・府中・東広島・福山・廿日市津田で平年並、その他は平年より多かった。

【6月】 下旬は梅雨前線の活動が活発化。寡照。

上旬 気圧の谷や上空の寒気の影響を受けることが多く、曇りや雨となる日が多かった。

中旬 低気圧や梅雨前線の影響を受けることが多く、曇りや雨となる日が多かった。19日から

20日にかけては、中国地方に停滞する梅雨前線の活動が活発となり、大竹で110.0ミ、廿日市津田で98.0ミ、高野で82.5ミ、八幡で74.0ミの降水量を観測した他、県内全域で10～65ミの降水量となった。

下旬 梅雨前線の影響で曇りや雨の日が多かった。21日から22日にかけて、梅雨前線が山陰沖から四国の南海上まで南下し、内黒山で80.0ミの降水量を観測した他、県内全域で15～50ミの降水量となり、内黒山では21日の19時10分までの1時間に47.5ミの激しい雨を観測した。28日から29日にかけては、中国地方に停滞する梅雨前線の活動が活発となった影響で、道後山で73.5ミ、内黒山で72.5ミの降水量を観測した他、県内全域で10～65ミの降水量となった。

月平均気温 府中で平年より高く、その他は平年並か、平年より低かった。

月降水量 高野・八幡・内黒山・大竹・倉橋・久比で平年並、その他は平年より少ないか、かなり少なかった。

【7月】 6日ごろ、中国地方が梅雨明け。

上旬 前半は梅雨前線や上空の寒気の影響で曇りや雨の日が多かった。5日未明から明け方にかけて、南から湿った空気が流れ込み、大気の状態が不安定となった影響で、県南東部ではまとまった降水量となった。後半は、高気圧に覆われて晴れる日が多かった。こういった中、中国地方は6日ごろに梅雨明け（平年7月20日ごろ、昨年7月23日ごろ）した。

中旬 前半は、気圧の谷や寒気の影響を受け、大気の状態が不安定となることが多かった。15日17時00分までの1時間に、廿日市津田では39.5ミの雷を伴った激しい雨を観測した。後半は、高気圧に覆われて晴れる日が多く、猛暑日（日最高気温35度以上）となる日もあった。19日の昼過ぎから夕方にかけて、暖かく湿った空気が流れ込み、大気の状態が不安定となった影響で、河内では14時40分までの1時間に38.0ミの雷を伴った激しい雨を観測した。

下旬 高気圧に覆われて晴れる日が多く、猛暑日となる日もあった。特に後半は、上空の寒気や湿った気流の影響で、大気の状態が不安定となり、県内の所々で雷を伴った激しい雨となる日が多かった。

月平均気温 三入で平年より高く、その他は平年よりかなり高かった。

月降水量 志和・福山で平年より少なく、その他は平年よりかなり少なかった。

【8月】 下旬は大気の状態が不安定で、局地的な大雨。

上旬 高気圧に覆われて晴れる日が多かったが、湿った気流や上空の寒気の影響で大気の状態が不安定となり、県内の所々で雷を伴った激しい雨となる日があった。

中旬 はじめと終わりは高気圧に覆われて概ね晴れた。中頃は上空の寒気や前線及び熱帯低気圧の影響を受け、雨の降る日があった。14日未明には、三入で03時16分までの1時間に観測史上第1位となる62.0ミの非常に激しい雨を観測（従来の日最大1時間降水量の第1位は、1997年8月5日の60ミ）した。また、15日夕方には、美土里で17時10分までの1時間に48.0ミ、19日昼前には、八幡で09時50分までの1時間に31.0ミの激しい雨を観測した。

下旬 気圧の谷や前線の影響で、曇りや雨となる日が多かった。29日の朝から昼前にかけて、前線の影響で大気の状態が不安定となり、河内では08時30分までの1時間に観測史上第1位となる88.5ミ（従来の日最大1時間降水量の第1位は、2005年7月2日の59ミ）、福山では09時37分までの1時間に観測史上第1位となる93.0ミの猛烈な雨を観測（従来の日最大1時間降水量の第1位は、1952年8月5日の73.3ミ）した。

月平均気温 三入で平年より低く、府中・廿日市津田・大竹・久比で平年より高く、その他は平年並となった。

月降水量 高野・三次・庄原・八幡・大朝・甲田・三入・世羅・志和・河内・福山・廿日市津田・竹原で平年より多く、その他は平年並となった。

【9月】 四国の南海上を台風第13号が通過したが、県内では大きな影響はなかった。

上旬 高気圧に覆われて晴れる日が多かったが、中頃までは気圧の谷や寒気の影響を受ける日があった。

中旬 気圧の谷や前線及び上空の寒気の影響を受けて、曇りや雨となる日が多かった。13日は気

庄の谷と寒気の影響で、廿日市津田で17時11分までの1時間に54.5ミリの非常に激しい雨を観測した。15日は四国の南海上にある前線の影響で、呉で10時33分までの1時間に37.5ミリの激しい雨を観測した。19日は四国の南海上を台風第13号が通過したが、県内では大きな影響はなかった。20日の夕方から上空の寒気が流れ込んだ影響で、県北部の所々で雷を伴った激しい雨となった。

下旬 天気は周期的に変化した。21日は気圧の谷が通過した影響で、因島では10時30分までの1時間に42.0ミリの激しい雨を観測した。前線が中国地方を南下した影響で、25日の夜遅くから26日の昼前にかけて、高野で55.5ミリの降水量を観測した他、県内全域で10~35ミリの降水量となった。また、四国の南海上に停滞する前線の影響で、29日から30日にかけて、県南部を中心にまとまった降水量となり、大竹で79.0ミリ、久比で70.5ミリの降水量を観測した。

月平均気温 三入で平年並、その他は平年より高いか、かなり高かった。

月降水量 大竹で平年より多く、高野・庄原・福山・竹原・因島・呉・倉橋・久比で平年並、その他は平年より少ないか、かなり少なかった。

【10月】 上旬から中旬にかけて高気圧に覆われることが多く、高温。

上旬 高気圧に覆われて晴れる日が多かった。中頃は低気圧や気圧の谷の影響で曇りや雨となった。5日は低気圧が四国の南海上を通過した影響で、因島で44.0ミリ、福山で43.0ミリの降水量を観測した他、県内全域で15~40ミリの降水量となった。

中旬 高気圧に覆われて晴れる日が多かった。14日は気圧の谷の影響で、午前中、南部の所々で雨が降った。

下旬 気圧の谷や寒気の影響を受けて、曇りや雨の日が多かった。

月平均気温 三入で平年並、その他は平年より高いか、かなり高かった。

月降水量 高野・八幡で平年よりかなり少なく、大朝・王泊・加計・三入・東広島・河内・広島・呉・倉橋で平年より少なく、その他は平年並となった。

【11月】 19日に広島で初雪と初冠雪（極楽寺山）を観測。20日には初霜と初氷を観測。

上旬 気圧の谷の影響で曇りや雨となる日が多かったが、中頃にかけて高気圧に覆われて晴れる日もあった。

中旬 前半は高気圧に覆われて晴れの日が続いた。後半は気圧の谷の影響や冬型の気圧配置となり曇りの日が多かった。なお、19日に広島で初雪（平年は12月9日）と初冠雪（極楽寺山、平年は12月8日）を観測し、20日には初霜（平年は12月7日）と初氷（平年は12月9日）を観測した。

下旬 天気は周期的に変化した。

月平均気温 三入で平年より低く、その他は平年並となった。

月降水量 高野・因島・大竹・久比で平年より多く、その他は平年並となった。

【12月】 下旬の終わりごろ、冬型の気圧配置が強まり、北部中心に大雪。

上旬 はじめは高気圧に覆われて概ね晴れたが、その後は短い周期で天気に変化した。5日は気圧の谷が通過した影響で、八幡で54.0ミリ、志和で50.0ミリの降水量を観測した他、県内全域で20~45ミリの降水量となった。6日には冬型の気圧配置が強まった影響で、高野で27センチ、八幡で23センチ、大朝で15センチの最深積雪を観測した。

中旬 高気圧に覆われて晴れる日が多かったが、前半は気圧の谷や寒気の影響で、雲が広がり雨が降る日もあった。

下旬 短い周期で気圧の谷が通過した後、冬型の気圧配置となった。21日は気圧の谷が通過した影響で、八幡で26.0ミリ、道後山で23.0ミリの降水量を観測した他、県内全域で5~20ミリの降水量となった。また、31日には冬型の気圧配置が強まり、八幡で38センチ、高野で30センチの最深積雪を観測した。

月平均気温 東広島・福山・廿日市津田・大竹で平年より高く、その他は平年並となった。

月降水量 高野・三次・庄原・油木・甲田・三入・志和・東広島・広島・呉・倉橋で平年より多く、その他は平年並となった。